

県議会報告

18年4月

日本共産党 岡山県議会議員団

岡山市北区内山下2-4-6 岡山県議会内
TEL 086(226)7412
FAX 086(231)2187

森脇ひさき
氏平みほ子
すます伸子

2月議会

来年度予算などが提案された2月議会は、議案九十一件および発議七件を可決。三月二十日閉会しました。日本共産党は、須増伸子県議が一般質問に立ち、氏平みほ子県議が討論をおこないました。

残土対策とirikumi強化を

須増県議が質問



倉敷市児島の各所で、山林の谷間が残土捨て場にされ、残土規制を求め住民運動がおこなっています。

数年前には台風による豪雨で残土捨て場の法面が崩壊。県外から児島港経由で大量の土砂が運び込まれ、そのなかに有害物質を含む土が搬入される(大阪で搬出業者が逮捕され発覚)事件もありました。須増議員は、すでに残土条例を策定した千葉県と広島県のとりくみを紹介し適正な残土処理をおこない環境保全と住民の安全・安心を確保する「残土条例」の制定、市や関係部局による対策チーム設置を求めました。

知事は「法令にもとづき関係部局が連携して災害防止や良好な環境確保の観点でとりくんでいる」と答弁しました。

予算協議会

二月議会に先立って予算の議論をおこなう予算総括協議会(二月七日)では、森脇ひさき県議が県民の声をもとに質問しました。

若者支援の県政へ

森脇県議が質問



若者支援の一環として、給付制奨学金制度と奨学金返還支援制度の創設を求めました。

返還支援制度について知事は、「東京などからのUターン就職にとりくむ中小企業に対し、奨学金返還助成への支援を検討したい」と答弁しました。

森脇県議は、新たな制度創設を評価しつつ、県内の中小企業等に就職したすべての方に返還制度が適用されるよう一層の拡充を求めました。

給付制奨学金について知事は、高校生の授業料を軽減する「奨学のための給付金」制度などがあるため、「給付制

た。須増県議は、いくつかの事例をあげながら「対応できていない」と反論。知事から「うまく機能していないこと、もつと良いやり方があるのであれば、(条例や対策チームの設置も)否定・除外するものではない」との答弁を引き出しました。

住民本位で公共交通の確保策を

両備グループが赤字のバス路線を廃止する届出をおこなったことが二月議会直前、大問題になりました。

須増県議はこの問題で、「地方の現状に合わない規制緩和をあらためよ」という小嶋社長の指摘にもとづき、県としても国に働きかけること、住民参加と交通・移動の権利を保障し、輸送の安全と公共性・広域性を重視した交通基本条例を策定することを求めました。

国でも対応が検討されるなかで後日、廃止届けは取り下げられることとなりましたが、引き続き県政の重要な課題のひとつとして、問題提起していきたいと思います。

奨学金)創設は考えていない」と答弁。森脇県議は、「奨学のための給付金」が適用されている生徒は12%ほどで、適用されてもなお約12万円〜22万円の自己負担があることを指摘し、くりかえし制度創設を求めました。

国保料の負担軽減を

国民健康保険制度の運営主体が県になるにともない、県として独自の負担軽減策を講じるよう求めました。

知事は、「国から交付される公費が拡充される」として、独自の支援はおこなわないと答弁。森脇県議は、せめて激変緩和への支援とこれまでの特定検診への補助の継続を求めました。特定検診の補助については、「検診受診率向上による医療費適正化に資するとりくみとして、努力者支援制度のなかでおこなう」と答弁しました。